

産業廃棄物処理計画作成~~（変更）~~報告書

令和5年 6月27日

（宛先）

埼玉県東松山 環境管理事務所長



報告者 氏名又は名称及び住所 ボッシュ株式会社 東松山工場

並びに法人にあつては 埼玉県東松山市箭弓町3-13-26

その代表者の氏名 代表取締役社長 クラウス・メーダー

（電話番号 0493-22-1552）

令和4年度の産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画作成~~（変更）~~したので、埼玉県生活環境保全条例第20条第2項前段~~（後段）~~の規定により、次のとおり報告します。

事業場の名称	ボッシュ株式会社 東松山工場
事業場の所在地	埼玉県東松山市箭弓町3-13-26
計画期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日
変更の概要	
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の規模	輸送用機械器具製造業
② 事業の規模	16,823百万円
③ 従業員数	1,583人（令和4年4月1日）
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項		
<p>(管理体制図)</p> <p>環境マネジメントシステムISO14001の中で設定した環境総括者、工場環境管理責任者のもと、各部門責任者を配し、工場・事業所間の連携を図りながら活動できる組織、体制を整えています。</p>		
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項		
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙2参照
	排出量	別紙2参照
	<p>(これまでに実施した取組)</p> <p>① 水溶性廃油の社内処理減容化量アップ</p> <p>② 廃油排出量管理の実施</p> <p>② ゴミ分別の徹底</p> <p>④ 廃棄物の再資源化推進</p>	
③ 計画	【目標】（令和5年度）	
	産業廃棄物の種類	別紙2参照
	排出量	別紙2参照
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>1, 売店のビニール袋を紙袋への変更</p> <p>2, 廃液交換サイクルの拡大化</p> <p>3, ゴミ分別の徹底</p> <p>4, 廃棄物の再資源化推進</p>	
産業廃棄物の分別に関する事項		
① 現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>環境マネジメントシステムの中で設定した「産業廃棄物分別基準書」及び「ゴミ分別ガイド」に沿って、各工程での排出ルールを決め、分別に取り組んでいる。</p>	
② 計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>資材輸送用に使っている木パレットを、有価物として再利用できるものとそうでないものを分別し、産業廃棄物を減らしていく。</p>	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（                      年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量		別紙2参照
	優良認定処理業者への処理委託量		
	再生利用業者への処理委託量		
	認定熱回収業者への処理委託量		
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		
(これまでに実施した取組) ① 水溶性廃油の社内処理減容化量アップ ② 廃油排出量管理の実施 ③ ゴミ分別の徹底 ④ 廃棄物の再資源化推進			

⑤ 計画	【目標】(令和5年度)			
	産業廃棄物の種類	別紙2参照		
	全処理委託量			t
	優良認定処理業者への 処理委託量			t
	再生利用業者への 処理委託量			t
	認定熱回収業者への 処理委託量			t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t	
	(今後実施する予定の取組) 1, 水溶性廃油の社内処理減容化量アップ 2, 廃油交換サイクルの拡大化 3, ゴミ分別の徹底 4, 廃棄物の再資源化推進			
※事務処理欄				

(第6面)

備考

- 1 「変更の概要」の欄は、変更の報告の場合に記載することとし、その記載に当たっては、変更した部分について変更前及び変更後の内容の概要を対照させること。
- 2 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記載すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記載すること。
  - (2) ②欄には、製造業における製造品出荷額（前年度実績）、建設業における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関における病床数（前年度末時点）等、業種に応じて事業規模が分かるような前年度の実績を記載すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物について発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記載すること。
- 3 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量及び自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記載すること。
- 4 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記載するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（昭和46年政令第300号）第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、再生利用業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の4の2第1項の認定を受けた者）への処理委託量並びに認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記載すること。
- 5 それぞれの欄に記載すべき事項の全てを記載することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記載し、当該欄に記載すべき内容を記載した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記載し、当該欄に記載すべき内容を記載した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記載すべき事項がないときは、「―」を記載すること。
- 6 ※印の欄には、記載しないこと。
- 7 用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

別紙1 廃棄物処理フロー

廃棄物分類	中間処分		中間処分2		最終処分方法	
	処理方法	処理後	処理方法	処分/リサイクル	処理方法	最終形態
水溶性廃油	油水分離	油	-	-	-	再生重油
		水→廃アルカリ	中和、蒸発処理	燃え殻	溶融固化	路盤材
					固形化・破砕	再生砕石
					固化	建設骨材
中和	-	-	-	下水放流		
不水溶性廃油	油水分離	水分	-	-	水処理	下水放流
		油分	-	-	焼却	消滅(残さ無し)
引火性廃油	焼却	残渣無し	-	-	-	-
強酸	中和	汚泥	-	-	埋立	管理埋立
		水	-	-	-	下水放流
			-	-	-	再利用
定着液	焼却	残渣無し	-	-	-	-
廃酸(有害)	中和	水分	-	-	焼却(蒸発)	水蒸気化
		汚泥	-	-	分級混練	路盤材
現像液	焼却	残渣無し	-	-	-	-
アルカリ廃液	中和	水分	-	-	焼却(蒸発)	水蒸気化
		汚泥	-	-	分級混練	路盤材
汚泥A	脱水	油	-	-	-	再生重油
		水→廃アルカリ	中和、蒸発処理	燃え殻	溶融固化	路盤材
					固形化・破砕	再生砕石
					固化	建設骨材
中和	-	-	-	下水放流		
汚泥B	脱水	汚泥	焼却	燃え殻	溶融固化	路盤材
					固形化・破砕	再生砕石
					固化	建設骨材
					混合、混練	調整汚泥
汚泥B	脱水	水分	-	-	水処理	下水放流
		汚泥	-	-	埋立	管理型埋立
汚泥B	混練	-	-	焼成(廃白土)	セメント原料	
研削スラッジ	焼却	燃え殻	-	-	焼却・焼成	セメント原料
罫子粉	中和(フィルター)	汚泥	-	-	埋立	管理埋立
		処理水	-	-	-	再生利用
二硫化モリブデン	中和(フィルター)	汚泥	-	-	埋立	管理埋立
		処理水	-	-	-	再生利用
ソルト汚泥	脱水	水分	-	-	水処理	下水放流
		汚泥	-	-	分級混練	路盤材
廃プラ	破砕	破砕物	破砕・圧縮(再資源化)	フラフ	-	火力発電原料
					焼却	路盤材
					溶融固化	人工骨材
					固形化	路盤材
					造粒固化	路盤材
					管理型埋立	
焼却・溶融	熱回収(発電)					
廃家電	破砕・焼却	燃え殻	-	-	溶融固化	路盤材
		破砕物	-	-	焼却	路盤材 安定型埋立
廃缶	焼却	燃え殻	-	-	埋立	管理埋立
廃プラ	破砕	破砕物	-	-	焼却	セメント原料
廃砥石	破砕		-	-	破砕(再生)	再生砕石
			-	-	破砕(再生)	再生砕石
木くず	破砕	チップ材	-	-	-	再生
石定盤	破砕		-	-	再生	再生砕石
ガラス・ビン	破砕	ガラスくず	-	-	再生	資源回収
乾電池	選別・破砕	汚泥	-	-	溶鉱炉製錬	資源回収
		金属	-	-	-	資源回収
蛍光灯	破砕・不溶化	ガラスくず	-	-	再生	資源回収
		アルミニウム	-	-	再生	資源回収
		鉄	-	-	再生	資源回収
		蛍光材	-	-	再生	覆土材
		水銀	-	-	再生	資源回収
		プラスチック	-	-	再生	資源回収
低濃度PCB含有物	焼却	廃鉄くず	-	-	再生	資源回収
		廃セラミック	-	-	埋め立て処理	管理埋立

## 令和4年度の産業廃棄物発生量の実績 : 875.7 トン

種 類	廃油	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃プラスチック類	木くず	ガラス/ 瓶	廃乾電池・ バッテリー	金属くず	廃蛍光灯	セラミック・陶 磁器くず	砥石/ 石定盤
産業廃棄物発生量	613.46	0.61	0.61	127.23	103.13	26.10	0.08	0.23	0.28	0.52	0.58	2.90
優良認定業者への処理委託量	613.46	0.61	0.61	84.36	62.35	0.00	0.08	0.23	0.28	0.52	0.58	0.17

単位 : トン

## 令和5年度の産業廃棄物発生量の目標 : 876.0 トン

種 類	廃油	廃酸	廃アルカリ	汚泥	廃プラスチック類	木くず	ガラス/ 瓶	廃乾電池・ バッテリー	金属くず	廃蛍光灯	セラミック・陶 磁器くず	砥石/ 石定盤
産業廃棄物発生量	613.00	1.00	1.00	127.00	103.00	26.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00	3.00
優良認定業者への処理委託量	613.00	1.00	1.00	84.00	62.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	1.00	0.00

単位 : トン